

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (21年10月)	1 教員の年齢構成が高いため、教育研究の継続性を踏まえ、今後の採用計画など、教員組織編成の将来構想を着実に実行すること。	平成23年4月末、急遽60歳半ばの専任教員が退職した。年齢構成に留意し後任を公募したところ50歳前半の教員が候補となった。平成23年10月、教員資格審査「可」となり、平成24年4月採用した。これにより教員の年齢構成の改善が図られた。今後の採用が必要となった場合も年齢構成にも留意していく。なお、当該教員の担当科目は当初より平成24年度からの開設科目である。(24)	今後、新規採用が必要となる場合には、若手の教員を採用する予定である。また、就任した若手教員には系統・分野ごとに教授が指導し、スムーズな移行が図られるよう教育研究体制を構築する。(22) 教員研究発表会及び学部内委員会・部会を通じて就任した若手への円滑な移行を図りつつある。(23)
	2 教員の補充を必要とされた4授業科目については、科目開設時までに教員を充足すること。うち、専任教員の配置を必要とされた3授業科目については、確実に専任教員を配置すること。	教員の補充（兼任可）を必要とされた1授業科目については、専任教員を配置することとし、平成22年1月の教員資格審査を受け「可」となっている。(22) 3授業科目について平成22年8月に教員資格審査を受け「可」となっている。(23)	専任教員の補充を必要とされている3授業科目は、2年次後期以降の開設科目である。平成22年7月の教員資格審査を受け、開設時までに確実に専任教員を配置する予定である。(22)
設置計画履行状況 調 査 時 (23年 2月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (24年 2月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (25年2月)	該当なし		

(注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。（認可で設置された学部学科等のみ。）

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
- ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
- ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

<栄養科学部 栄養科学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
① 卒業要件単位数 124単位 教養教育科目の必修6単位及び選択必修4単位、 専門科目の必修76単位、さらに、教養教育科目及び 専門科目の選択科目から38単位以上を修得。	① 管理栄養士養成施設申請に係る東北厚生局の指導過程 において、必修科目として「基礎栄養学実験（1単位）」 1科目を追加したため、卒業要件単位数の内訳を変更。 124単位 教養教育科目の必修6単位及び選択必修4単位、 専門科目の必修77単位、さらに、教養教育科目及び 専門科目の選択科目から37単位以上を修得。

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）
 及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については
 適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD活動含む)

① 実施体制 a 委員会の設置状況 ・平成22年4月盛岡大学ファカルティ・ディベロップメント委員会の中に栄養科学部専門委員会を設置。 ・構成は学部長他2名。 b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） ・平成22年4月から開催。 ・委員の他にテーマに関係する教員が参加。 c 委員会の審議事項等 ・FD活動計画の策定及び実施、FD活動の評価、FD活動に関する情報収集と提供 ② 実施状況 a 実施内容 ・教員研修会 ・FD研修会 ・教員研究発表会（含ジャーナルクラブ） b 実施方法 ・教員研修会は、開学時に教員全員参加による1泊2日の宿泊研修を行ない、開学にあたっての教育方針及び 学部教育目標について教員全員の意識統一を図り、学生指導の在り方等について研修した。 2年目は、専任教員対象に首都圏の中核大学の教授を講師に招き、管理栄養士国家試験受験対策例について の講演会を開催した。また、毎年学生対象に特別講師による講演会を開催しているが、講演後講師を困んで最 新の情報交換、討議を通して教員研修に充てている。 教員は、担当科目及び専門分野に関連する他の教員の授業を自由に聴講できるよう環境を整えている。 ・FD研修会は、文学部と共同で開催している。授業効果調査で学生から高い評価があった教員等が講師と なって行っている。テーマは以下のとおり。 ア) FD重視の潮流と具体的ポイント イ) 授業効果調査の結果から ウ) 社会学の魅力をどのように伝えるか エ) 学生の学校適応の促進を意図した授業づくり オ) 聴覚障がいをもつ学生の受け入れについて カ) 授業効果調査を踏まえて一私の授業への取り組み— ・教員研究発表会は、教員の研究内容について共通認識をもち、教育に反映させることを目的として、基礎系 教員が中心となって開催している。抄読や成果の発表など研究力を高める活動を行った
--

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 教員研修会は、1年目は開学時に、2年目は7月に1回開催しほぼ全員が参加した。学生対象の特別講師による講演会は年間7～8回開催し、その都度、講演会后に講師を囲んで、栄養学、管理栄養士に求められる役割及び海外での国際栄養協力の状況等多岐にわたる最新情報を得ている。ほぼ全員教員が参加している。
- ・ F D研修会は、年4回、教授会終了後に文学部との共同で開催した。ほぼ全員が参加している。
- ・ 教員研究発表会は、平成24年度は8回開催した。参加者は基礎系教員が多く参加している。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・ 教員研修を通じて他大学における管理栄養士養成の状況、国際的視野にたつた管理栄養士の役割、生活習慣病等の最新の医療の情報と管理栄養士に求められる知識、福祉施設の状況等、最新の知識や情報を踏まえ、それぞれの授業に活かしている。ジャーナルクラブを含む教員研究発表会で得た最新の知識は、実験の授業に早速取り入れて改善を図るなどの取り組みを行っている。また、他の教員の授業の聴講は、授業の内容の重複を避ける、学生の理解度を知る、教授法を学ぶなど、授業改善に役立てている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・ 前期8月、後期2月全教科の授業効果アンケートを実施した。調査結果は、各教員にフィードバックした。

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・ 今後調査結果については、自己点検・評価報告書の内容の一部として公開を予定している。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

別紙のとおり

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・ 完成年度の平成25年度に4年間の自己点検・評価をまとめ、平成26年4月に報告書の刊行を予定している。

b 公表方法

- ・ 報告書を刊行し、本学と同様な学部を有する大学及び学生の出身高校に各1冊を配布する。
- ・ 報告書の概要を大学ホームページ上に公開する。

③ 認証評価を受ける計画

- ・ 平成21年度に文学部は日本高等教育評価機構の認証評価を受け、大学基準に適合していると評価された。栄養科学部は学内自己点検・評価を重ね、平成27年度までに認証評価を受ける予定である。

(注)・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無 (有 無)

b 公表時期（未公表の場合は予定時期） (平成 25 年 5 月 31 日)